

ジュニア・エコノミー・カレッジ すざか セミナー資料

須坂の先人に学ぼう

# 越 寿三郎 物語



主催 須坂商工会議所青年部  
後援 須坂商工会議所／須坂市／須坂市教育委員会  
協力 NPO 法人 NEXT 須坂／須商まちかど SHOP くますぎ／有限会社サーティースリー

問い合わせ用メールアドレス [yeg@suzaka.or.jp](mailto:yeg@suzaka.or.jp)

須坂商工会議所青年部事務局

〒382-0091 須坂市立町 1278-1 番地

担当：竹前

FAX 026-245-5096 電話番号 026-245-0031

# 須坂の先人に学ぼう

時代	西暦	須坂では
江戸時代	～1867	堀という殿様がいた時代
明治時代	1868～1912	須坂の製糸業の始まり
大正時代	1912～1926	製糸業の全盛期
昭和時代	1926～1988	電子工業の時代
平成時代	1989～	君たちの時代

## いまの須坂があるのは

須坂は、明治時代から昭和時代のはじめにかけて「煙突から出る煤煙とまゆを煮る臭い」に包まれた製糸業（まゆから糸を取る仕事）を中心とした「糸の町」でした。

特に明治時代おわりから大正時代には、製糸業のおかげで、周りのまちより早く、電気・電話・鉄道・上下水道・都市公園・学校施設・病院・銀行などの整備事業が行われました。その中心でがんばったのが「製糸王」といわれる越寿三郎でした。

今の須坂があるのは、製糸業を通じ須坂の繁栄の基礎を築いた先人（昔の人）たちの知恵と行動力そして絶対にあきらめないという気持ちによるものです。

「須坂、横浜、ヨーロッパ」という言葉があります。須坂産の生糸（シルク）は横浜港からヨーロッパ、アメリカに輸出されました。

こし じゅさぶろう

## 須坂を築いた先人・越 寿三郎

越寿三郎は、須坂の豪農小田切家の三男に生まれ、20歳で越家の養子になりました。

最初はまゆの仲買人（まゆを仕入れて工場に売る人）をやって、製糸のことを勉強して

24歳で26釜の小さな製糸工場をつくりました。31歳の時に214釜、44歳の時

には1,135釜を持つ大工場（山丸組）の社長さんになっています。また埼玉県大宮

工場や愛知県安城工場、新潟県村上など長野県外にも進出しています。

その当時の新聞では「氏は眼中ただ製糸の事あるのみ…逆境にあうも耐え、年毎

に発展の氣勢を示し…その規模の拡大驚くのほかなし…」(越寿三郎は製糸の事だけを

真剣に考えて、苦しい時にも一生懸命がんばって、毎年工場を大きくしていくのは、た

だ驚くばかりだ…)と書いてあります。また「個人経営の製糸家としては全国にならぶ

ものなく山丸組製糸王国と称されるに至った…」(株式会社のようなものではなく、一人

で経営している会社では日本一だ…)とも書かれています。

工場を大きくするために越寿三郎はいろいろな事をしてきました。それが今でも須坂

の財産であり、みんなのために役立っています。

## 越寿三郎がやってきた事

製糸結社 (小さな工場を集めてみんなでやる会社) 「俊明社」社長



須坂には明治8年(1875)に「東行社」(須坂の糸が東へ行くから)という製糸結社が

つくられました。(日本で最初の組合)

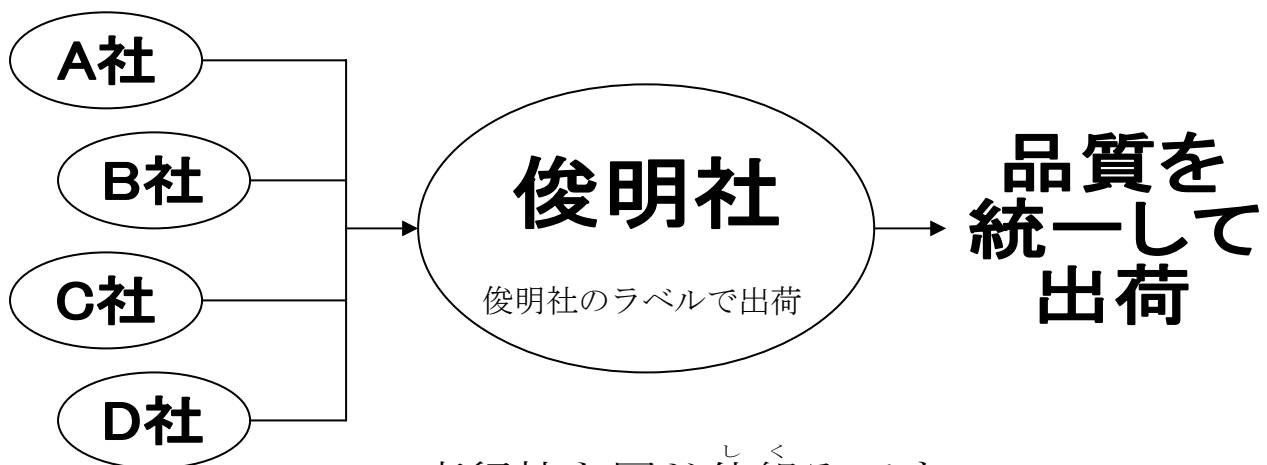
しかし大きくなりすぎて仲間割れしてしまい、新しく製糸結社「俊明社」が誕生しました。その社長さんが越寿三郎です。

須坂には「東行社」と「俊明社」の2つの大きな組合が誕生し、須坂の生糸を有名にしました。でも、すごいのは、この2つの組合がいつも連絡を取り合って、同レベルの品質やより優良な生糸をつくるために努力した事です。

## どうしてつくったの？

須坂には小さな工場がいっぱいあって、生糸の太さや光沢（色やつや）がばらばらで、品質が悪く生糸を高く買ってもらえませんでした。

そのため生糸の品質の均一化と共同出荷をするためにつくられた会社です。



東行社も同じ仕組みです。

越寿三郎は、生糸を高く買ってもらえるよう、また小さな会社を倒産させないように一生懸命努力しました。

また従業員やまちの人のために総合病院「俊明社病院」を太子町につくりました。

## 須坂に電気を灯した

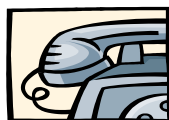


明治36年（1903）に信濃電気株式会社（今の中部電力）をつくりました。

### どうしてつくったの？

製糸工場の石油ランプによる火災を防ぎ、より明るくして仕事をしやすくするために電気をつくりました。その後、水車や蒸気にかわり動力としても使いました。長野県の製糸工場では電気を動力として使ったのは須坂の製糸工場が初めてでした。

## 須坂に電話を開設した



須坂に電話が引かれたのは、長野市より10年も早かった。

東行社が主体の事業でしたが、越寿三郎も大きくかかわりました。

### どうしてつくったの？

製糸工場同士の連絡を早くしたり、生糸のできぐあいなどの指導をするために電話が導入されました。

## 須坂に水道をつくった



明治20年（1887）に須坂に初めて水道が引かれた。

### どうしてつくったの？

製糸工場でする水や生活で使う水は、川や井戸の水でした。ところが明治19年に須坂にコレラ（原因は水）が流行したため製糸工場は20日間も仕事ができなくなりました。

た。雑菌ざっきんのない良質りょうしつな水みづを確保かくほするために水道が引かれました。

## 道路と鉄道の整備



村山橋むらやまばしや長野電鉄線ながのでんでんてつせんをつくるのに努力しました。

### どうしてつくったの？

須坂から生糸を運ぶには、馬車で村山まで行って、舟で千曲川を渡り、長野から汽車きしやで横浜まで運んでいたの、千曲川ちまがはが増水ぞうすいした時は荷物が出せませんでした。

越寿三郎はじめ製糸家せいしかたちは、その不便かいしょうを解消するために千曲川に村山橋かを架けました。そして時間じかんや労力ろうりょくを減らすために大正15年(1926)長野電鉄と一緒に鉄道てつどうもつくりました。

## 銀行をつくる



製糸家せいしかのための銀行ぎんこうが須坂に多くつくられました。

越寿三郎がつくった銀行は「上高井銀行かみたかいぎんこう」で、今の八十二銀行になりました。

### どうしてつくったの？

製糸家たちがまゆを買ったりするためのお金を貸してやるためです。

生糸をつくるために必要なお金の80%は“まゆ”の購入費こうにゅうひだといわれています。

良い生糸をつくるには、良いまゆひつようが必要でした。だからお金がたくさんかかりました。

# 学校をつくる



大正15年(1926)に息子の越泰蔵こしやすぞうを設立者せつりつしゃとして、私立須坂商業学校しりつすぎかしょうぎょうがっこう(今の須坂商業高校すぎかしょうぎょうこうこう)をつくり、自分は学校経営がっこうけいえいの顧問こもんになりました。

## どうしてつくったの？

学校の中での勉強と自分で体験たいけんして得る勉強えがとっても大切だと考えたからです。

そして少人数しょうにんずうで生徒ひとりひとりの能力のうりょくを引き出しすことを大事だいじにしました。

最初さいしょの入学生は43人で、最初さいしょの校長先生きょうしゅうは九州こくわの小倉商業学校こくらしょうぎょうがっこうから来ました。

そのほかにも、越寿三郎こしすざぶろうは工場はたらで働く小さな(12歳じふにさいくらいから働いていた)女工じょこうさん

たちを須坂小学校すぎかしょうがっこうに通わせ、義務教育ぎむきょういくの勉強を教えました。

## 須坂小唄をつくりました



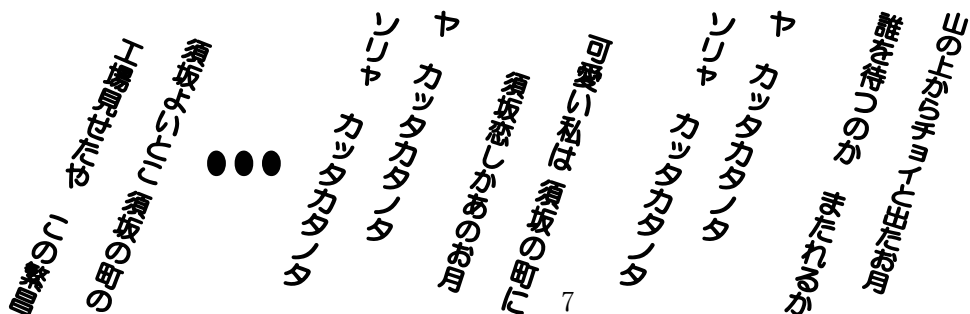
工場の歌として「須坂小唄」を中山晋平なかやましんぺい・野口雨情のぐちうじょうに頼んでつくりました。

この歌は「新民謡しんみんよう」という日本で一番最初につくられた歌です。

今でもカッタカタまつりで、みんな踊おどっているよね。

## どうしてつくったの？

工場こうじょうで働く人たちが、楽しく、元気に、一生懸命いっしょうけんめい働いてもらいたいからつくりました。



## 須坂小唄

# 越寿三郎のすごいところ

## 人を大切にしました

- 「工女は資本だ」といって、毎年年初には従業員の家をまわって挨拶して歩きました。
- 病気になった人は必ず病院で治してから家に帰しました。
- 食事を十分に与え、寄宿舍（従業員の住んでいる所）の衛生管理をしっかりとやりました。（食事代はすべて会社で負担しました）
- 従業員の大運動会や旅行などの娯楽の時間も必ずつくりました。
- いつも仲間の意見を聞いて、みんなで協議して仕事をしていました。

## いつも前向きでした

- どうしたら良質の生糸が大量生産できるかいつも考えていました。
- 苦難にあったときは、常に乗り越えた時の事を想像して対処しました。  
[世界大恐慌（世界が貧乏になったとき）の時は、大量生産から良質少生産に考え方を切り替え、乗り切りました]
- 製糸産業発展のために、いつも情報を取り、常に新しいことに挑戦しました。
- 過去の経験を忘れないで、これからの時代をいつも先取りしていました。

## 製糸と一緒に町にも元気を与えました（経済効果）

- 食事の材料などを須坂から調達してたので、八百屋さんや魚屋さんは繁昌しま



した。（須坂の人口が、14,000人のころ、山丸組には3,600人いた）

- 女工さんたちは、須坂の呉服屋さんや化粧品屋さんでいっぱい買い物をしました。

そのほか、糸柁製造などの工業や劇場、映画館なども繁昌しました。

- 仕事のお客さんがいっぱい来たので、食べ物屋さんや飲み屋さん、宿屋さんがいっぱいあり、そこで働いている人もたくさんいました。

## きび 厳しい部分もありました

- 女工さんたちに、仕事で賞罰（ほめたり、おこったり）を与えていました。
- 良い生糸をつくった人には賞金、悪い生糸をつくった人には罰金。
- 良い生糸をつくると白い札、悪い生糸だと赤い札に点数をつけて後ろに貼りだす。
- 個人個人の仕事量（成績）を大勢の人が通るところに貼りだす。

（人間は他人には負けたくないという気持ちを利用して、競争させて良い生糸をみんながつかれるようにしていた。工場同士でも競争していました）

## 須坂に文化をつくりました

大きなまゆ蔵、立派な建物など、これからの須坂の観光やふるさとの大切な遺産と

みんなの自慢できるものをたくさん残してくれました。

これからも大切にしていましょ。

# 越寿三郎の主な実績 (山丸組を除く)

ながのせいしかぶしがいいしや  
長野製糸株式会社 創立 社長 (須坂・長野市吉田)

しんえつせいしかぶしがいいしや  
信越製糸株式会社 創立 社長 (新潟県村上市)

しなのでんきかぶしがいいしや  
信濃電気株式会社 創立 社長 (中部電力の前身)

しんえつちっそかぶしがいいしや 創立 社長 (信越化学の前身) せきたんちっそ [石炭窒素の製造]

信越カーバイト株式会社 社長 (吉田・柏原) [原料木炭さくさんせきたんや酢酸石炭の製造]

しゅんめいしゃ  
俊明社 社長

かみたかいぎんこう  
上高井銀行筆頭株主・六十三銀行取締役 (八十二銀行の前身)

すざかきいとどうぎょうくみあい  
須坂生糸同業組合 創立 組合長

ながのけんきいとどうぎょうくみあい ひょうぎいん  
長野県生糸同業組合 評議員

すざかしょうぎょうがっこう 創立 こもん 顧問 (須坂商業高校の前身) [初代校主、二男泰蔵に任す]

たかいそうこかぶしがいいしや  
高井倉庫株式会社 創立 社長

かつかいこうえきじぎょう こうけん  
その他各界公益事業に貢献する

昭和7年3月11日に69歳でたかい他界しました。

越寿三郎のつくった会社や学校は、

今もみんなの役に立っています。

# 越寿三郎の碑に刻まれている言葉

(臥竜山昇竜坂)

ひとすじに  
郷土きよつんどの栄さかえ  
的まととして  
けわし山坂やまさか  
風雨ふううに耐たへて

どんな苦勞があっても、どんなにつらくても、ただ須坂が良くなる事を考えて、  
一生いっしょうけんめい懸命が**ん**ばったすばらしい人です。

みんなのふるさと須坂に  
こんなに  
すばらしい先輩がいます。

**みんなもがんばろう！**